

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	幼保連携型認定こども園ミナパもくせいのもり
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『動植物』

<テーマの設定理由>

当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しております。開園し、3年目の幼保連携型認定こども園です。昨年度も園の特色である果樹園での活動と、烏骨鶏や川魚等の生き物の飼育を通して、動植物に興味関心を広げてきました。今年度も園の特色である身近な園環境の中で動植物と出会い、探求する心を育み、深めるため、このテーマの設定としました。

2. 活動スケジュール

- ・6月めだかの飼育開始
- ・8月プランターへの種まき（ほうれん草）
- ・9月ベビーキャロットの種まき・オクラの苗植え
- ・11月つるなしスナップの種まき
- ・1月チューリップの球根植え
- ・1月どじょうの飼育開始

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・テラスに大きなプランターを準備して、0歳児クラスでも観察できやすいよう工夫した。また、水槽を準備し、めだか、どじょうを飼育した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

年間を通して、戸外で保育者が様々な植物を紹介し、見たり触れたり、においを嗅いだりする機会を持たせていった。子どもの成長と共に8月には、植物の種を蒔いて成長計画した月に種を蒔いたり、苗を植えた植物の観察を行い、収穫した野菜を自園で飼育している烏骨鶏に食べさせることおこない、生き物と触れ合う機会を作った。また、室内でのメダカやドジョウの飼育を行うことで、生き物へ興味を持ち、観察していた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動に取り組んでいく中で、「はっぱ」「たべた」と言語の発語に繋がり、なぜ食べるのだろうか？という不思議に思う思考や、葉っぱを食べる現実の様子を不思議そうに観る姿があった。また、メダカとドジョウを飼育した際には、餌を食べる様子をじっくりと観る姿があり、水辺の生き物の興味関心へと繋げていくことができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

保育者が意識をもち、環境を整えていくことで子どもの関心が広がり、0歳児クラス（1歳を迎えた子ども）一人ひとりが、それぞれの感じ方で、見たり触れたり匂いを嗅いだりすることで、五感の発達に繋がる基礎を培う体験をすることができるのではないかと感じられた。保育者が、知識として知っていることでも、新たな視点で取り組み、子ども一人ひとりと一緒にわくわくしていくことが大切だと改めて気づきました。